

事業報告書 (令和 元 年度)

事業名 おいでんせえカフェ

団体名 一般社団法人 おいでんせえ岡山

担当者名 逢 澤 直 子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

◎時間：12時～16時

◎参加者：総計 150名

6/12 (水) アイランドテラス (大元)

7/6 (土) 真備アースデイ岡山 in 真備美しい森



7/17 (水) はまはうす (妹尾)

7/24 (水) まえだ診療所 (妹尾)



8/21 (水) はまハウス (妹尾)

9/4 (水) まえだ診療所 (妹尾)



9/18 (水) はまはうす (妹尾)



10/2 (水) まえだ診療所 (妹尾)



11/3 (日) 暮らしのたね (問屋町)



11/6 (水) まえだ診療所 (妹尾)



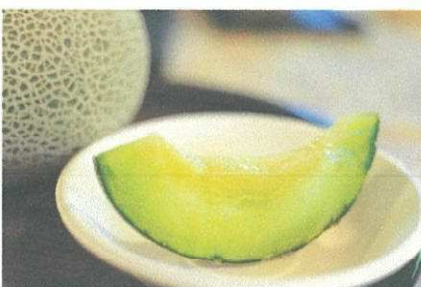
11/10 (日) 暮らしのたね (問屋町)



11/24 (日) 暮らしのたね (問屋町)



12/1 (日) 暮らしのたね (問屋町)



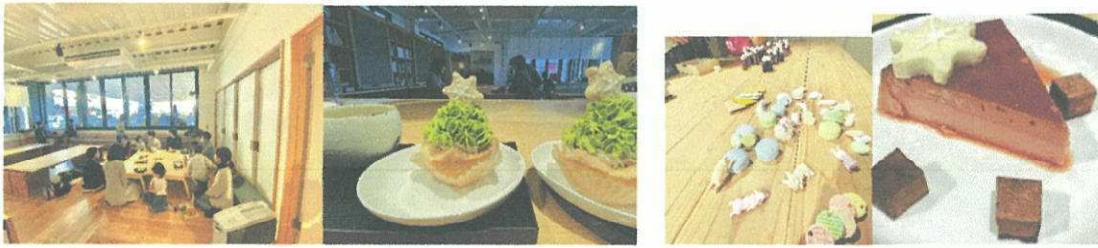
12/8 (日) 暮らしのたね (問屋町)



12/11 (水) 奉還町花咲きサロン (岡山駅前) すこやか保健室とのコラボ (25名)



12/15 (日) 暮らしのたね、ゲスト医師 (10名) 12/22 (日) 暮らしのたね、ゲストアロマ講師 (5名)



1/5 (日) 暮らしのたね (問屋町)



1/12 (日) 暮らしのたね (問屋町)

1/26 (日) 暮らしのたね (問屋町)



2/2 (日) 暮らしのたね (問屋町)

2/9 (日) 暮らしのたね (問屋町)



2/16 (日) 暮らしのたね、すこやか保健室とコラボ (40名)



2/23 (日) 暮らしのたね、操車場跡地の新公園を考える市民の会のお野菜と活動報告 (10名)



2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

「持続可能な社会づくり」

・ 県外からの移住者の生産者が岡山を選ぶ理由は、子どもたちのために持続可能な生き方を、地球を考え、自然豊かな岡山の地産地消、生産者の顔がわかる安心な野菜やお米を選択し移住を選んだ方が多いことにより、顔の見える生産者の紹介や販売、食の提供により、消費の場を作ってきました。

・ 自分の居場所を見つけ、地域貢献の場所として視点を変えたり、見方の変化を見られることが良かったです。

・ 生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただきました。

・ 移住者の多いことをきっかけに、地域の特色を活かした生産を考え、交流を持つことで、地域の一員の自覚に目覚め、おのずと防災への認識を持っていただくきっかけとなりました。

・ 地元の方と生産者と交流することで、地域のブランドを検討し、地域のブランドが生まれる場づくりとなることで、雇用創出、産品販促は地方に文化振興を創りあげ、地域の一員としての役割に気づくことで、孤立化及び転出者を防ぎ、住み続けられるまちづくりとなり、子供たち次世代へとつながるきっかけの場所となりました。

- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持と持続可能な次世代へとつながるきっかけ作りができました。
- ・食育、農業、仕事、健康、教育、法律などの専門分野での講師を招き、話をしてもらうことで、学ぶ機会となりました。
- ・地域防災コミュニティへの意識を確立していく場づくりとなりました。
- ・対話を続けながら、ニーズを聞き取り、安心感を与えられる場所の確保で孤立感を防ぎ一歩前へと生きる力となりました。
- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康への維持を促進するきっかけとなりました。
- ・農業生産者の自信を回復し、事業としてより取り組めるきっかけとなり、また同じ目的で移住される方、または転職される方の励みになりました。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

- ・移住されている方、下見に来られた方をきっかけとし、子育て世代の多い北長瀬学区、大元学区、その周辺の地元住民との連携により、学校以外のコミュニティ作りと住み続けられる地域作りへの防災意識へと発展しました。
- ・県外からの移住者の生産者が岡山を選ぶ理由は、子どもたちのために持続可能な生き方を、地球を考え、自然豊かな岡山の地産地消、生産者の顔がわかる安心な野菜やお米を選択し移住を選んだ方が多いことにより、顔の見える生産者の紹介や販売、食の提供により、消費の場を作ってきました。
- ・自分の居場所を見つけ、地域貢献の場所として視点を変えたり、見方の変化を見られることが良かったです。
- 生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただきました。
- ・農業生産者が自信を回復し、事業としてより取り組むことが見られました。また同じ目的で移住される方の励みにもなりました。
- ・実際に農園の生産者紹介することで、農を体験していただき、交流もうまれ、地域防災コミュニティへの意識も少しずつ目覚めているのが見られました。
- ・対話を続けながら、住む家のニーズを聞き取り、その場で探すことで安心感を与えられることができました。
- ・仕事を紹介または対話で聞き取ることにより、安心感を持っていただきました。
- ・心の内をさらけ出せる場所の確保で安全安心を感じていただき、一歩前へとすすめられることへ誘う場所となりました。

4. 今後の課題と展望

- ・11月より場所の変更があり周知していただくのに苦労しました。
- ・移住されている方、下見に来られた方をきっかけとし、子育て世代の多い北長瀬学区、大元学区、その周辺の地元住民との連携ができてきたことから、学校以外のコミュニティ作りと住み続けられる地域作りへのモデルとなることへと繋げていきたいです。
- ・コロナウイルス関係で取りやめたことと、これによって、動画配信をスタートアップしたので、今後とも保健、教育をもう少し強化していきたいと思います。